



2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月12日

東

上場会社名 アジャイルメディア・ネットワーク株式会社 上場取引所
 コード番号 6573 URL <https://agilemedia.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上田 怜史
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 部長 (氏名) 寺本 直樹 (TEL) 03 (6435) 7130
 四半期報告書提出予定日 2021年8月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の連結業績(2021年1月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	310	△6.3	△80	—	△71	—	△276	—
2020年12月期第2四半期	330	25.0	△102	—	△101	—	△131	—

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 △274百万円(—%) 2020年12月期第2四半期 △131百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	△111.22	—
2020年12月期第2四半期	△62.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	453	△9	△3.0
2020年12月期	764	268	34.1

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 △13百万円 2020年12月期 260百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00			
2021年12月期(予想)			—	0.00	0.00

3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	717	7.1	△93	—	△103	—	△319	—	△128.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり当期純利益については、当社元役員による資金流用に起因する第三者委員会による調査費用及び訂正報告書に係る監査費用等が適正かつ合理的な算定が困難であることから未定としておりましたが、現時点で入手可能な情報や予測に基づき算定致しました。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期 2 Q	2,485,180株	2020年12月期	2,485,180株
② 期末自己株式数	2021年12月期 2 Q	—株	2020年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期 2 Q	2,485,180株	2020年12月期 2 Q	2,086,880株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9
(追加情報)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（自2021年1月1日至2021年6月30日）におけるわが国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大により、経済活動や個人消費活動が再び制限を受けることとなりました。世界各国でワクチン接種が広がりを見せる中、感染症の拡大は一進一退を繰り返しており、経営環境は依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻くインターネット業界においては、スマートフォンやタブレット等の普及により、さまざまなSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の情報が増加するなか、インターネットで情報を比較検討した上で商品やサービスを購入し、クチコミを投稿・拡散する形へと変化してまいりました。さらに、2021年から本格導入が始まる第5世代移动通信システム（5G）も控え、今後もさらなる拡大が見込める市場と考えております。

当社グループは「世界中の“好き”を加速する」をビジョンに掲げ、企業やブランドのファンの育成・活性化を支援するアンバサダー事業を主軸事業としております。

当事業については、機能追加や業務提携等の積極的な事業展開に加え、ユーザーの特性にあわせて one to one マーケティングが実現できる動画ソリューション「PRISM」（特許取得済特許第6147776号、国際特許出願中）を提供する株式会社クリエ・ジャパン、SNSアカウント運営の自動化及び分析を行うSNSマーケティングオートメーションツール「DIGITAL PANDA（デジタルパンダ）」を提供する株式会社popteam、美容師/美容室向けのオンライン動画教育プラットフォーム「hairstudy（ヘアスタディ）」を開発・運営するHAIRSTUDY株式会社の子会社3社とのシナジー戦略を加速させております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は売上高310,031千円（前年同期比6.3%減）、営業損失80,739千円（前年同期は営業損失102,989千円）、経常損失71,846千円（前年同期は経常損失101,496千円）、特別利益として資産除去債務については見積額より大幅に削減できたことによる資産除去債務戻入益3,954千円の計上、特別損失として「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有している固定資産について、現在の事業環境及び将来の回収の可能性を検討した結果、減損損失102,809千円及び当社元役員による資金流用に起因する第三者委員会による調査費用及び訂正報告書に係る監査費用等56,273千円計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失276,416千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失131,278千円）となりました。

なお、当社グループは「アンバサダー事業」を主要な事業としており、他事業セグメントの重要性が乏しいためセグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度に比べ310,926千円減少し、453,943千円となりました。これは、流動資産が208,146千円減少し301,624千円となったこと及び固定資産が102,780千円減少し、152,319千円となったことによるものであります。

流動資産の主な減少は、現金預金の減少212,863千円によるものであります。固定資産の主な減少は、無形固定資産の減少85,706千円によるものであります。

一方、負債については、流動負債が9,266千円減少し201,660千円となったこと及び固定負債が24,274千円減少し261,456千円となったことにより463,117千円となりました。

流動負債の主な減少は、未払費用の増加32,288千円、短期借入金の減少41,088千円によるものであります。固定負債の主な減少は、長期借入金の減少24,535千円によるものであります。

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純損失を276,416千円計上したことにより利益剰余金が減少し△9,173千円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、191,916千円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果減少した資金は、144,603千円であります。これは主に税金等調整前四半期純損失275,618千円、減損損失の計上102,809千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果減少した資金は、7,246千円であります。これは主に無形固定資産の取得による支出14,663千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果減少した資金は、62,050千円であります。これは主に短期借入の返済による支出42,498千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の連結業績予想につきましては、当社元役員による資金流用に起因する第三者委員会による調査費用及び訂正報告書に係る監査費用等が適正かつ合理的な算定が困難であることから、親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり当期純利益を未定としておりましたが、これらの調査費用及び監査費用等について、適切かつ合理的に算定が可能となったため、2021年12月期連結業績予想の一部を算定いたしました。詳細については、本日(2021年8月12日)公表しました「2021年12月期連結業績予想の修正等に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	404,780	191,916
受取手形及び売掛金	81,568	95,873
その他	23,421	13,833
流動資産合計	509,770	301,624
固定資産		
有形固定資産	14,391	58
無形固定資産		
ソフトウェア	78,654	—
ソフトウェア仮勘定	1,922	—
のれん	69,018	63,889
無形固定資産合計	149,595	63,889
投資その他の資産		
投資有価証券	61,656	63,072
長期未収入金	301,640	353,446
その他	29,456	25,300
貸倒引当金	△301,640	△353,446
投資その他の資産合計	91,113	88,372
固定資産合計	255,099	152,319
資産合計	764,870	453,943
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,835	4,657
短期借入金	77,917	36,829
1年内返済予定の長期借入金	43,534	47,107
未払法人税等	12,598	3,619
その他	67,041	109,447
流動負債合計	210,927	201,660
固定負債		
長期借入金	285,731	261,196
その他	—	260
固定負債合計	285,731	261,456
負債合計	496,658	463,117
純資産の部		
株主資本		
資本金	526,813	526,813
資本剰余金	516,813	1,980
利益剰余金	△780,203	△541,786
株主資本合計	263,424	△12,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△564	591
為替換算調整勘定	△2,138	△1,099
その他の包括利益累計額合計	△2,702	△508
新株予約権	7,490	4,327
純資産合計	268,212	△9,173
負債純資産合計	764,870	453,943

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年6月30日)
売上高	330,938	310,031
売上原価	174,361	133,385
売上総利益	156,576	176,645
販売費及び一般管理費	259,566	257,384
営業損失(△)	△102,989	△80,739
営業外収益		
受取利息	4	541
受取配当金	0	0
助成金収入	2,064	9,841
その他	463	1,209
営業外収益合計	2,532	11,591
営業外費用		
支払利息	1,038	2,015
為替差損	—	65
その他	—	618
営業外費用合計	1,038	2,699
経常損失(△)	△101,496	△71,846
特別利益		
新株予約権戻入益	—	3,163
資産除去債務戻入益	—	3,954
特別利益合計	—	7,117
特別損失		
減損損失	—	102,809
貸倒引当金繰入額	29,162	51,805
特別調査費用等	—	56,273
特別損失合計	29,162	210,888
税金等調整前四半期純損失(△)	△130,658	△275,618
法人税、住民税及び事業税	620	798
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	620	798
四半期純損失(△)	△131,278	△276,416
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△131,278	△276,416

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△131,278	△276,416
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	233	2,193
その他の包括利益合計	233	2,193
四半期包括利益	△131,045	△274,223
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,045	△274,223
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△130,658	△275,618
減価償却費	17,373	7,506
減損損失	—	102,809
のれん償却額	4,122	5,129
貸倒引当金の増減額(△は減少)	29,162	51,805
受取利息及び受取配当金	△4	△541
支払利息	1,038	2,015
売上債権の増減額(△は増加)	43,349	△5,276
仕入債務の増減額(△は減少)	3,143	△5,177
未払金の増減額(△は減少)	△2,740	5,645
未払消費税等の増減額(△は減少)	735	9,731
未収入金の増減額(△は増加)	3,808	—
長期未収入金の増減額(△は増加)	△29,162	△51,805
その他	2,714	17,590
小計	△57,117	△136,186
利息及び配当金の受取額	4	541
利息の支払額	△1,038	△2,015
法人税等の支払額	3,131	△6,942
営業活動によるキャッシュ・フロー	△55,019	△144,603
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,557	△742
無形固定資産の取得による支出	△12,796	△14,663
その他	△703	8,159
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,056	△7,246
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△42,498
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,860	△19,552
株式の発行による収入	879	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	97,019	△62,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	233	1,036
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	27,175	△212,863
現金及び現金同等物の期首残高	135,968	404,780
現金及び現金同等物の四半期末残高	163,144	191,916

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前々連結会計年度及び前連結会計年度において、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上し、さらに当第2四半期連結会計期間末では債務超過となったことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施しております。

① 既存事業の売上強化を始めとする諸施策

主力事業であるファン育成・活性化を支援する「アンバサダープログラム」の提供を従来の大手企業有名ブランドのみならず、中小企業やeコマースを主体としたブランドにも提供することで収益の多様化を図っております。

また、当社子会社である株式会社クリエ・ジャパンが提供する動画合成・生成の特許テクノロジー「PRISM (プリズム)」は、昨今のDX (デジタルトランスフォーメーション) への取り組みにおいて注目されており、当社グループ各事業への導入による付加価値向上と、外部パートナーとの連携を強化することで収益性の向上を推進してまいります。

② コスト削減

収益基盤の改善を実現するため、オフィスの縮小による地代家賃の削減、組織体制の見直しによる効率的な事業運営、人件費を含む販管費及び一般管理費の見直しを実施しております。今後も継続的にコスト削減に取り組むことで経営合理化を行ってまいります。

③ 財務状況の安定化

事業運営と成長に必要な資金を確保するため、前連結会計年度に金融機関からの借入300,000千円の実行及び第三者割当増資による新株式の発行100,055千円並びに新株予約権の行使による払込200,111千円が完了しております。また、当社元役員に対する不正流出した資金の回収に尽力するとともに、当面の運転資金を確保するために金融機関を通じた制度融資の実現に向け協議し、加えて債務超過の解消に向けた対応策を検討してまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図ってまいります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、主力事業のアンバサダープログラム及びイベント施策の売上見込みには将来の予測を含んでいること、事業運営と事業成長を見据えた新たな資金調達についても金融機関から確約されているものではないことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が存在するものと認識しております。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年3月26日開催の定時株主総会において、欠損の填補を目的とする資本準備金の取崩しについて決議し、当該決議について、2021年3月26日に効力が発生しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が514,833千円減少、利益剰余金が238,417千円増加しております。

これらにより、当第2四半期連結期間末において資本金が526,813千円、資本剰余金が1,980千円、利益剰余金が△541,786千円となっております。

(セグメント情報等)

当グループは「アンバサダー事業」を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(追加情報)

当社グループは「世界中の“好き”を加速する」をビジョンに掲げ、企業やブランドのファンの育成・活性化を支援するアンバサダー事業を主軸事業としております。しかしながら、緊急事態宣言発令後は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、既存顧客で予定していたイベントプロモーション等は全て自粛となり、当社においてもその影響を受けております。

ただ、このような状況は、2021年末に向けて徐々に正常化し、2022年より新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に概ね戻ると仮定し、固定資産減損の兆候の判定等を行っております。

なお、この仮定は不確実性が高く、収束遅延により影響が長期化した場合には、追加で固定資産の減損損失が発生する可能性があります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。